

開花後の防除と予備摘果等について

福光フルーツ生産者協会
富山県砺波農林振興センター

1 概況

「ふじ」の開花始期は4月19日(前年より2日遅く、平年より1日遅い)、開花盛期は4月21日(前年より1日遅く、平年より1日早い)となりました。予備摘果は5月21日頃(満開30日後頃)、仕上げ摘果は6月20日頃(満開60日後頃)の終了を目安に計画的に作業を進めてください。

なお、現在のところ、目立った病害虫、気象被害等は見られません。

2 防除について(ふじ基準)

- ・黒星病、褐斑病の重点防除時期です。下表を参考に定期防除に努めて下さい。雨前散布を基本とし、散布間隔が10日以上開かないよう心がけて下さい。
- ・薬剤は、散布ムラの無いよう、ていねいに十分量を散布して下さい。

散布時期	対象病害虫	散布薬剤	使用倍率	100%当たり薬量
5月8日頃	黒星病・褐斑病・黒点病・斑点落葉病	ユニックス顆粒水和剤47 トレノックスフロアブル	2,000倍 500倍	50 g 200cc
	果実の表皮障害防止	クレフノン	100倍	1 kg
5月18日頃	黒星病・褐斑病・黒点病・斑点落葉病	デランフロアブル	2,000倍	50cc
	ハマキムシ類・ケムシ類・キンモンホソガ	サムコルフロアブル10	5,000倍	20cc
	果実の表皮障害防止	クレフノン	100倍	1 kg
5月28日頃	黒星病・褐斑病・炭そ病・斑点落葉病	デランフロアブル	2,000倍	50cc
	リンゴハダニ・ナミハダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000倍	50cc
	果実の表皮障害防止	クレフノン	100倍	1 kg

※展着剤(マイリノールの場合 10,000倍(10cc/100リットル))を加用して下さい。

※農薬散布時は周囲の他作物や住宅等への飛散防止に努めて下さい。特に通学路に面した園地では、登下校時の時間帯等、十分注意して下さい。

3 二年枝の摘蕾・花について

二年枝（前年伸びた枝）の花（えき芽花）（写真1）は、着果させても果形や果実品質が劣り、翌年の花芽形成にも影響しますので、早期の摘花作業に努めてください。

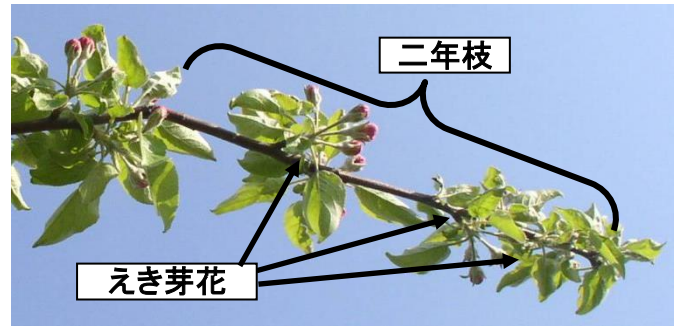


写真1「えき芽花」は全て摘み取る

4 摘果剤（ミクロデナポン水和剤85）の使用について

摘果作業の遅れは果実肥大や翌年の花芽形成にも影響します。摘果作業が遅れる恐れがある場合、摘果剤を散布してください。

＜注意点＞

- ① おおむね満開2週間後頃、中心果の横径が平均9mmの 때가散布適期となる。
- ② 対象品種は「ふじ」のみとする。
- ③ ミクロデナポン水和剤85は、希釈倍率1,200倍で散布する。
- ④ 散布直後の降雨があっても再散布は控える。
- ⑤ 効果が現れるまで散布後2週間程度かかるので、効果の発現を待たずハサミによる摘果作業を進める。

5 予備摘果について

ガク立ちを確認後（受粉7～10日後、写真2）～満開30日後頃を目安に終了してください。

＜注意点＞

- ① 「ふじ」以外の品種の側果は、さび果が出やすいので、必ず中心果を残す。
- ② 「ふじ」は、中心果が小さい場合や実止まりしなかった場合は、形が良く大きい側果を1果残す。
- ② 「秋映」は、さび果発生抑制のため、早めに予備摘果を終わらせる。
- ④ 「シナノスイート」は、心かび果発生抑制のため、他品種が終わってから実施する。
- ⑤ 「ふじ」、「秋映」は、軸の付け根から切り落とす（写真3）。

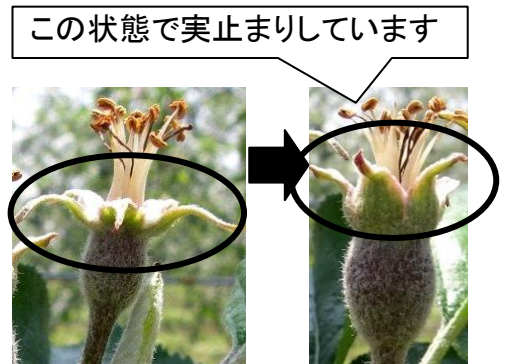


写真2 ガク立ちの確認

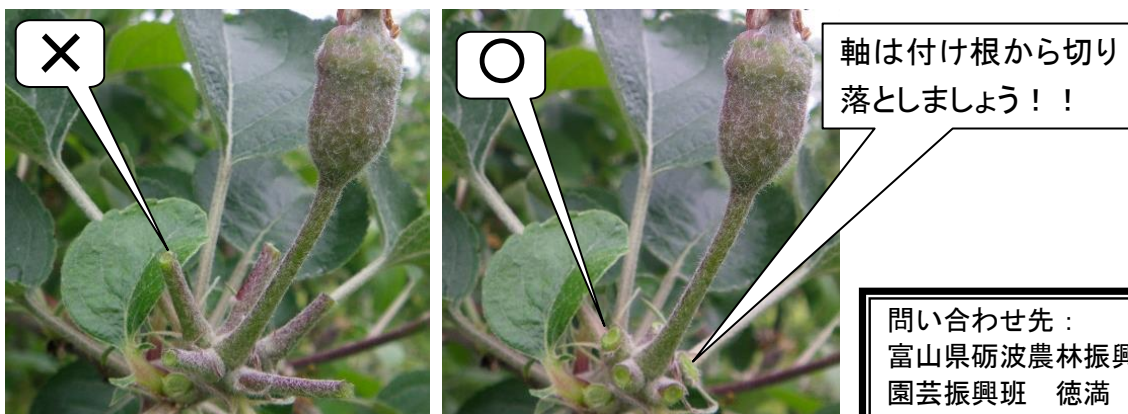


写真3「ふじ」、「秋映」の予備摘果

問い合わせ先：
富山県砺波農林振興センター
園芸振興班 徳満 TEL32-8112